

## 令和 6 年度 事業報告

今年度は、1 名退所され 24 名が通所された。強度行動障害と 23 名判定されており、自傷や他傷等の行動を未然に防げる為の支援を心掛け、対応を行った。職員は新たに、産休明けの職員を合わせて 4 名の方が 1 月より入社された。OJT を活用し、役職職員を中心に担当を決め、現在も一緒に支援等に取り組んでいる。

### 令和 6 年度重点項目に対する反省

#### ①職員間で情報共有を行い、チームとして利用者様の困り感を減少できるよう支援を行う。

4 月より、ほのぼのというソフトを導入していただき、各利用者様に対しての支援状況や利用者様の日々の様子を入力し、全職員で情報共有を図った。また、職員会議内では「冰山モデル」を活用し、問題行動と言われる行動の捉え方や支援の考え方など様々な視点で学んだ。各利用者様の困り感を減少できるようにグループに分かれ、支援の検討を行い、支援内容を決めた。

#### ②終の棲家構想に向けた基盤整備を実施していく

1 月 7 日（火）、起工式を開催。現在、工事が始まっている状況。

#### ③研修や自己啓発の取り組みを通して、専門的知識を習得する

宮崎県社会福祉研修センターの研修では、職員一人ひとりの立場に合った内容を申し込み、オンラインや現地にて研修を受けた。理事長より 5 回に分けて研修を開催していただき、自閉症やダウン症の特性や退行現象など、事例を通して学ぶことができた。

#### その他

- ・ 7 月 9 日（水）に特定な利用者様に対して不適切な支援が確認された
- ・ 1 月 27 日（月）の午前活動後、降車誘導時に確認を怠り、約 10 分の間車内に残す事故があった。  
2 件とも、利用者様、そのご家族へ謝罪を行い、宮崎市障がい福祉課へ報告を行った。  
早急に対応策を考え、翌日から 2 度とこのような事故が無いよう対応している。